

今だからこそ考えよう、 私たちが社会のためにできること！

令和2年10月 富山県消費者協会
富山県消費生活研究グループ連絡協議会

調査目的

現在、世界的に蔓延している新型コロナウイルスの感染拡大防止のため社会全体で様々な取り組みが行われており、消費者も、社会経済情勢への影響を考えて行動することが求められています。

今回の調査では、この状況下で私たちの消費行動にどのような変化があったか、また、どう変わっていったらいいのか、消費や経済の観点に着目しました。

私たちの日々の消費行動は、商品やサービスを購入することによって事業者を応援するとともに、人や社会、環境に配慮する「エシカル消費」に努めることによって、持続可能な社会の発展のための「SDGs」の目標達成に貢献することができます。

この機会に、自立した消費者としての力を高め、私たちが社会のためにできることを考えてみましょう！

調査時期

令和2年6月下旬～7月下旬

調査対象

配布 1,797 人 回答者 1,637 人【回収率 91.1%】

調査方法

紙面調査法(自記入式)

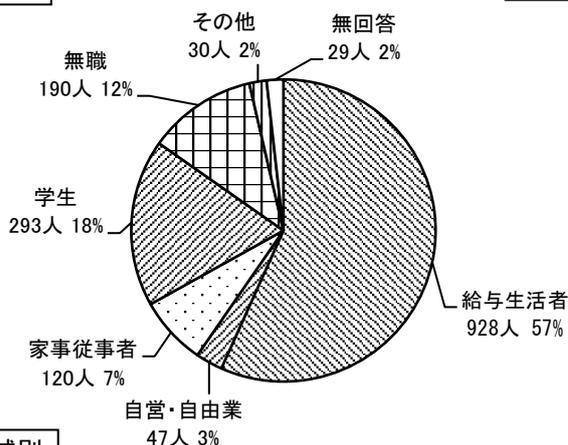
性別

男性 538 人(33%) 女性 1,079 人(66%) 無回答 20 人(1%)

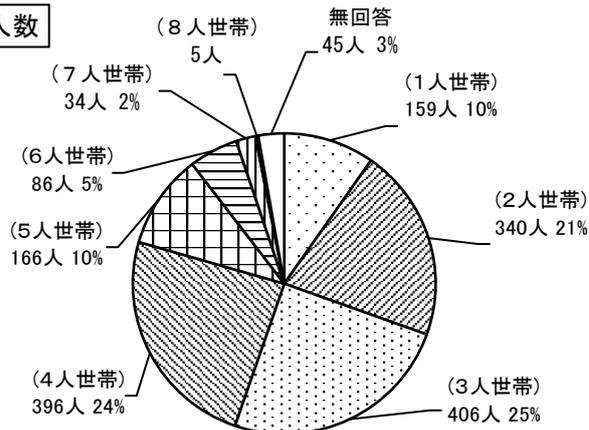
年代

年代	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
人数	107人	319人	173人	267人	287人	221人	254人	9人
割合	7%	19%	11%	16%	18%	14%	16%	1%

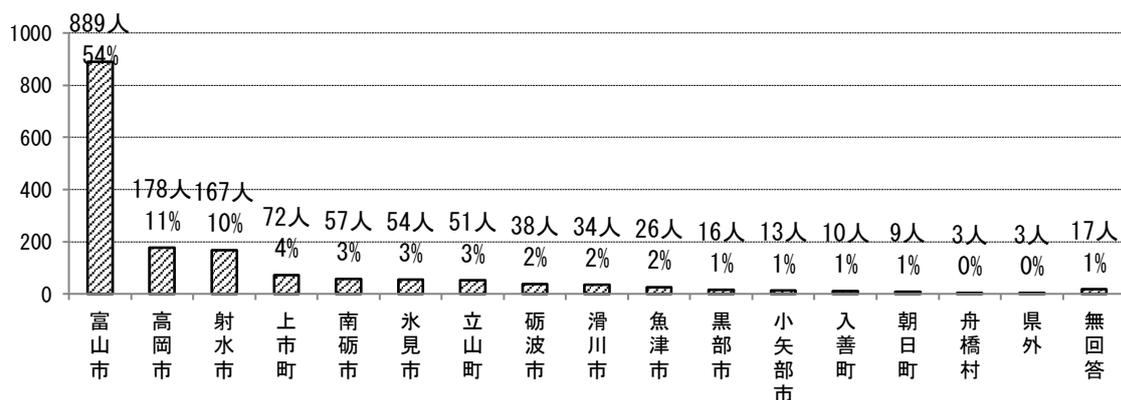
職業



世帯人数



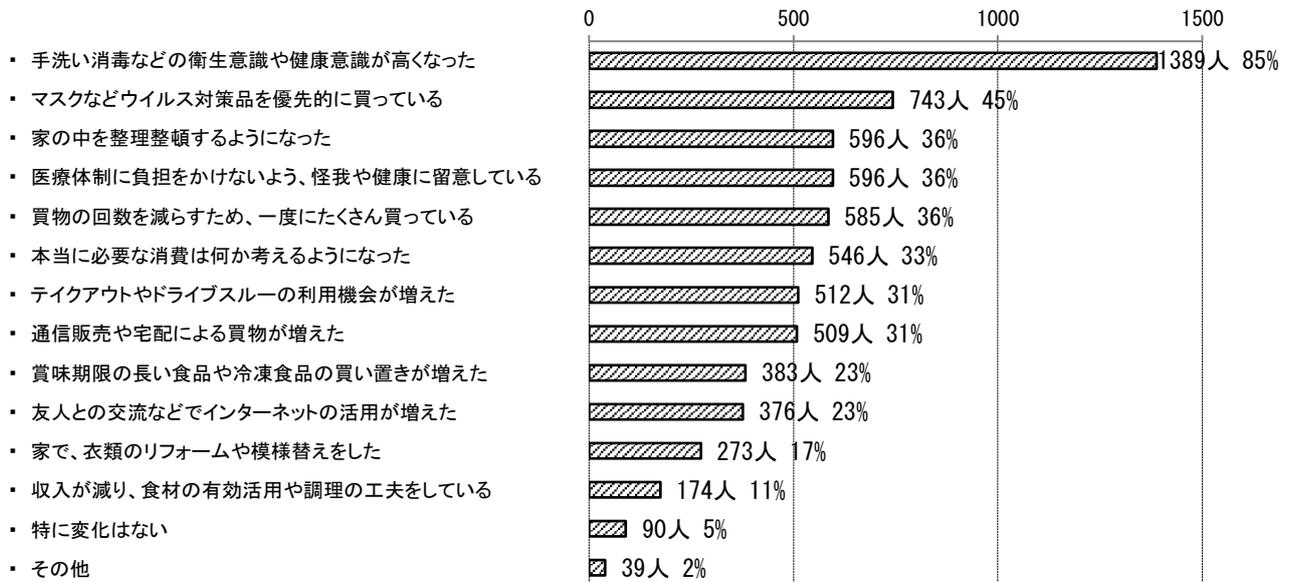
地域別



調査結果

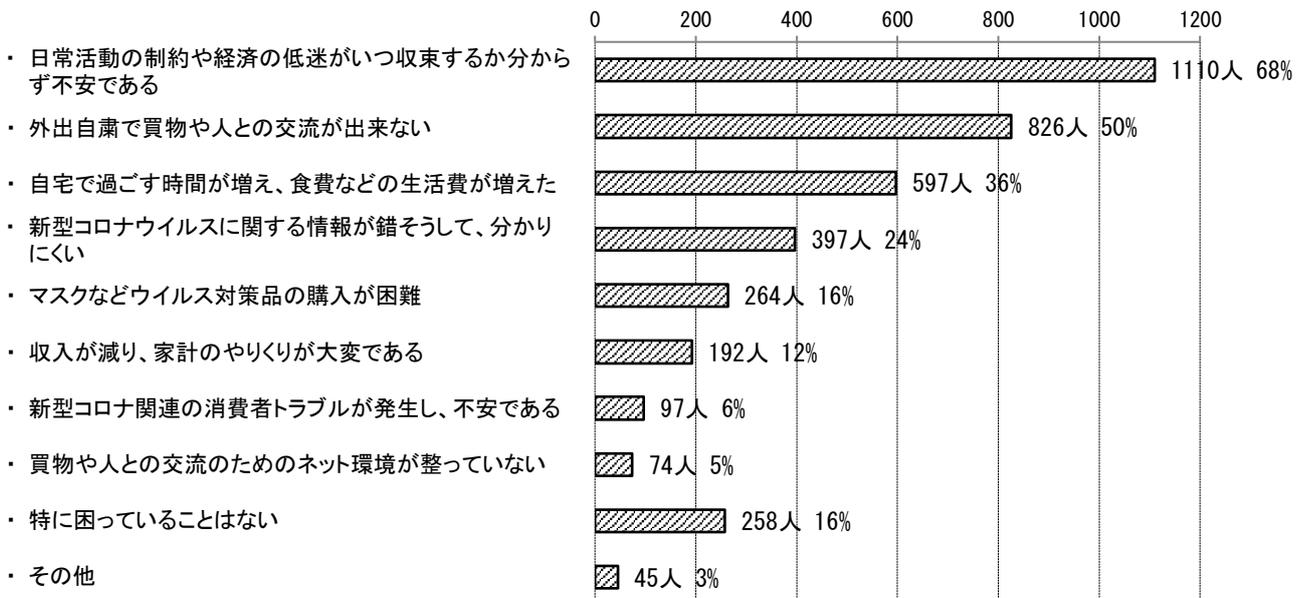
I 新型コロナウイルス感染症発生による現状から

問1 あなたの日常生活は、どのように変化していますか。(いくつでも)



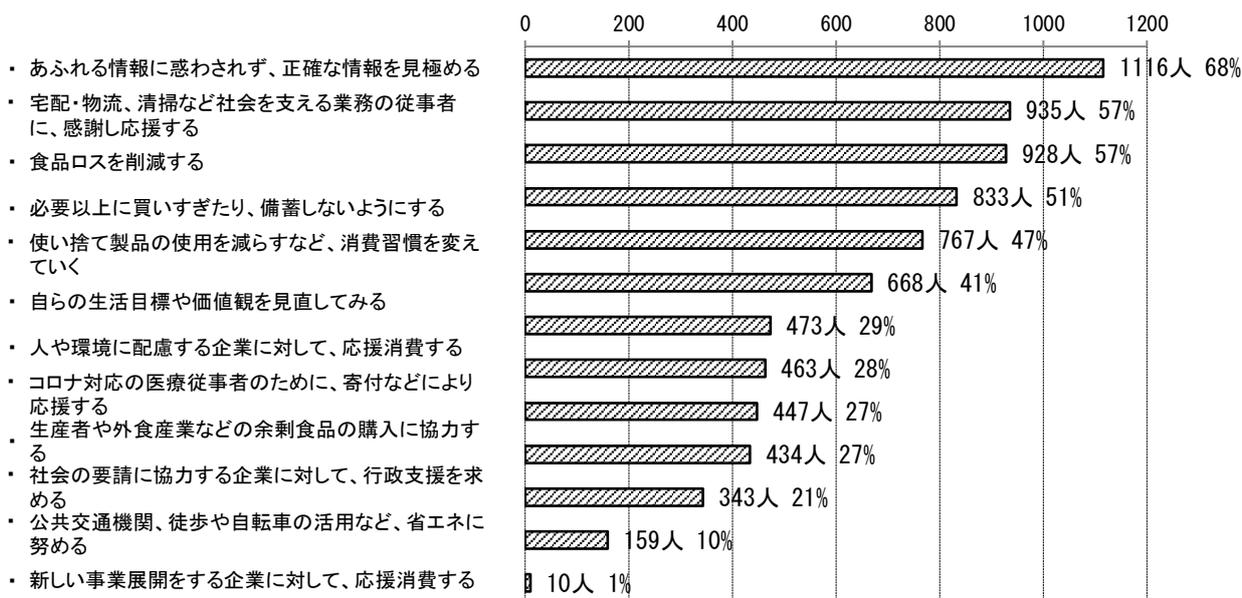
「手洗い消毒などの衛生意識や健康意識が高くなった」85%、「マスクなどウイルス対策品を優先的に買っている」45%、「家の中を整理整頓するようになった」、「怪我や健康に留意している」、「買い物回数を減らすため、一度にたくさん買っている」それぞれ36%である。また、「特に変化はない」5%である。

問2 あなたが消費生活の面で困っていることはなんですか。(いくつでも)



「日常活動の制約や、経済の低迷がいつ収束するか分らず不安である」68%、「外出自粛で買物や人との交流ができない」50%である。また、「特に困っていることはない」16%である。

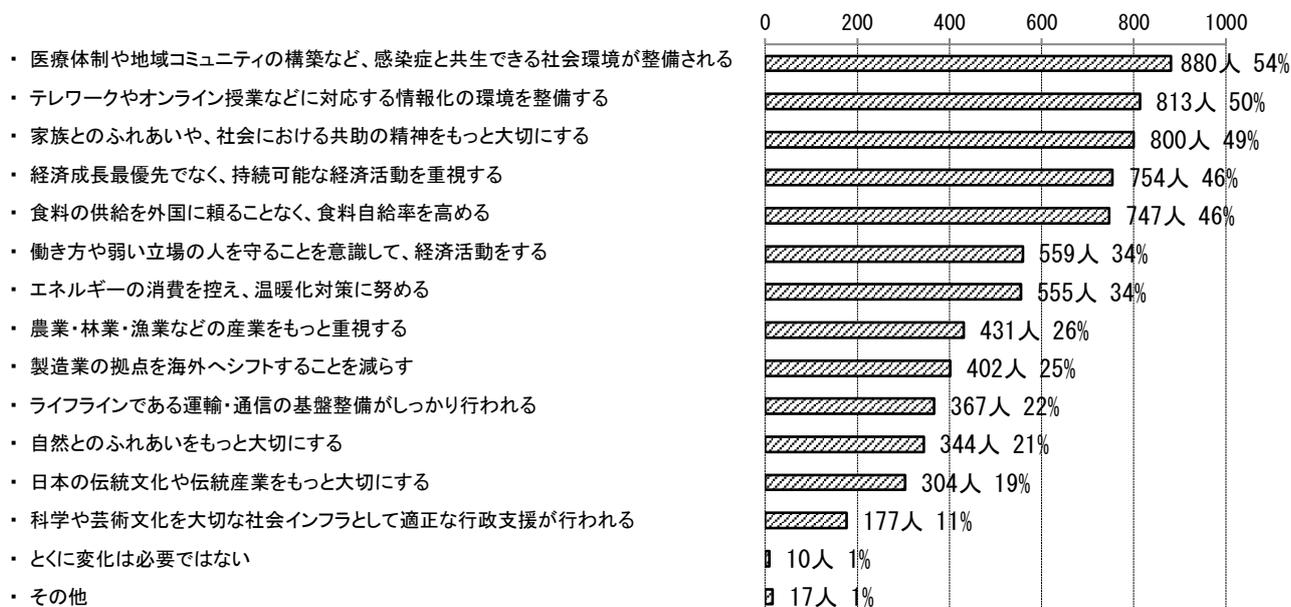
問3 経済の低迷が続く中で、将来的に持続可能な経済社会をめざすために、消費者としてどのような行動が望ましいと思いますか。(いくつでも)



「あふれる情報に惑わされず、正確な情報を見極める」68%、「宅配・物量、清掃など社会を支える業務の従事者に感謝し、応援する」、「食品ロスを削減する」それぞれ57%、「必要以上に買いすぎたり、備蓄しない」51%である。

II 今後の経済社会の在り方について

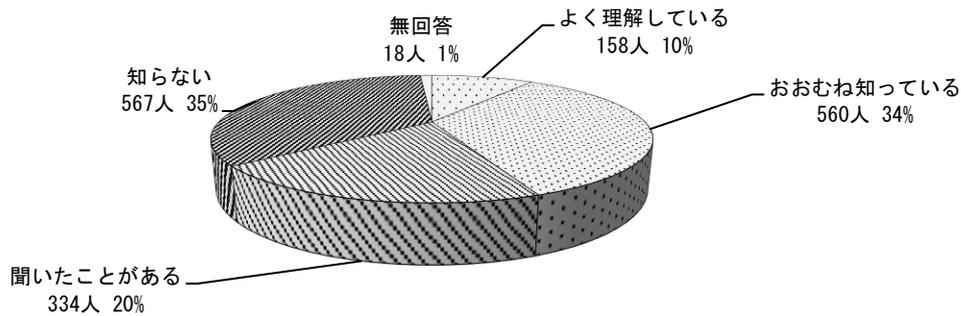
問4 新型コロナウイルス感染症が世界的に収束した後の社会は、どのように変化していけばいいと思いますか。(5つまで)



「感染症と共生できる社会環境が整備される」54%、「テレワークやオンライン授業などに対応する情報化の環境を整備する」50%、「家族とのふれあいや、社会における共助の精神をもっと大切にする」49%、「経済成長最優先でなく、持続可能な経済活動を重視する」、「食料自給率を高める」それぞれ46%である。また、「特に変化は必要ではない」1%である。

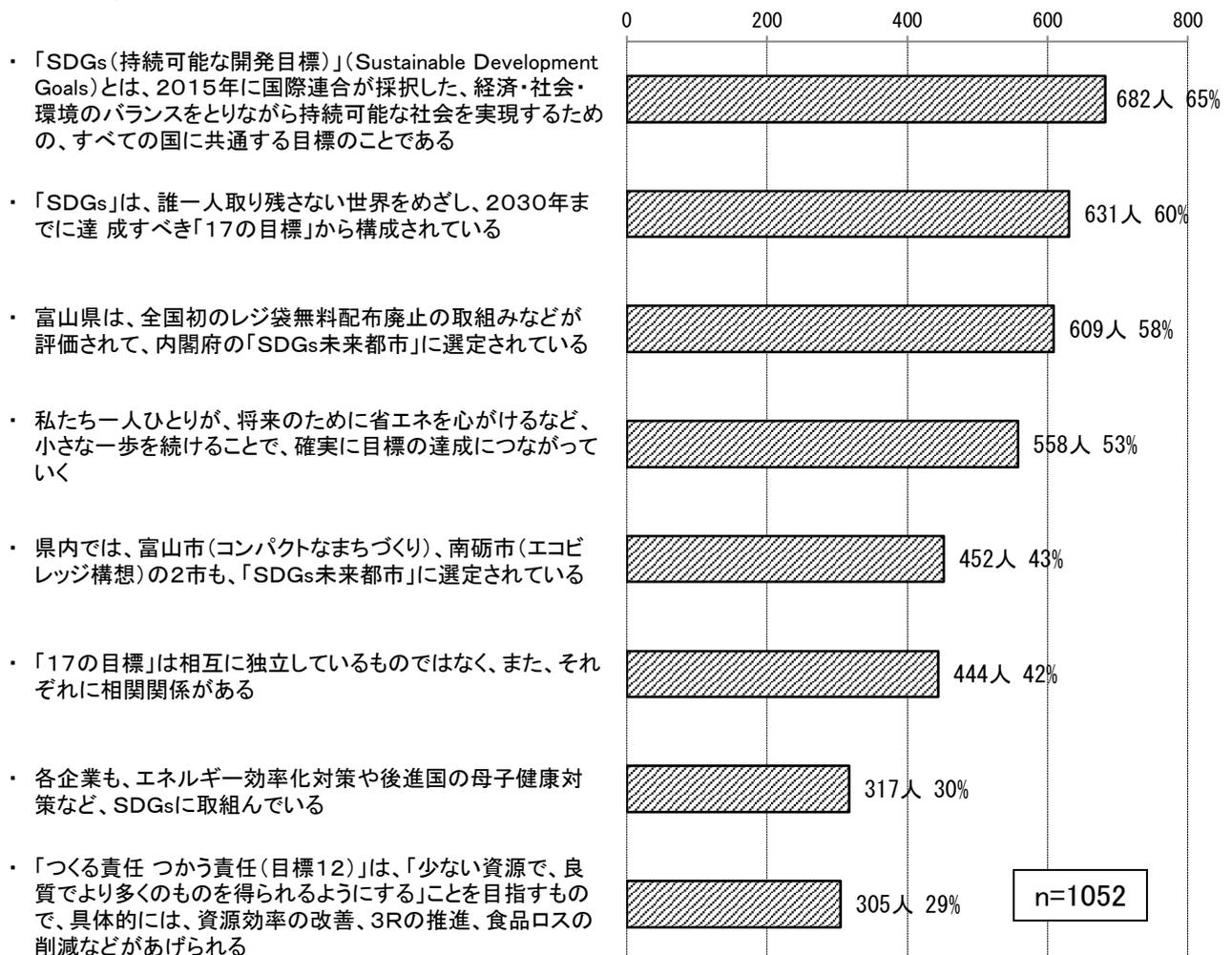
Ⅲ 「SDGs」や「エシカル消費」について

問5 (1) あなたは、「SDGs」という言葉を知っていますか。(1つだけ)

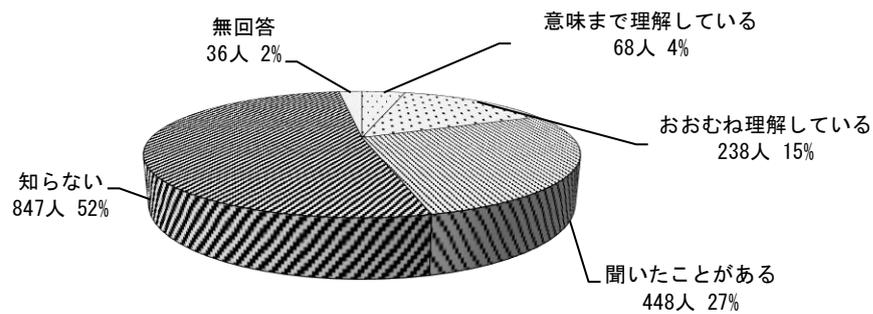


「よく理解している」、「おおむね知っている」合わせて44%、「聞いたことがある」20%、「知らない」35%である。

問5 (2) 上の(1)で、「よく理解している」「おおむね知っている」「聞いたことがある」を選択した方にお聞きします。「SDGs」に関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。(いくつでも)

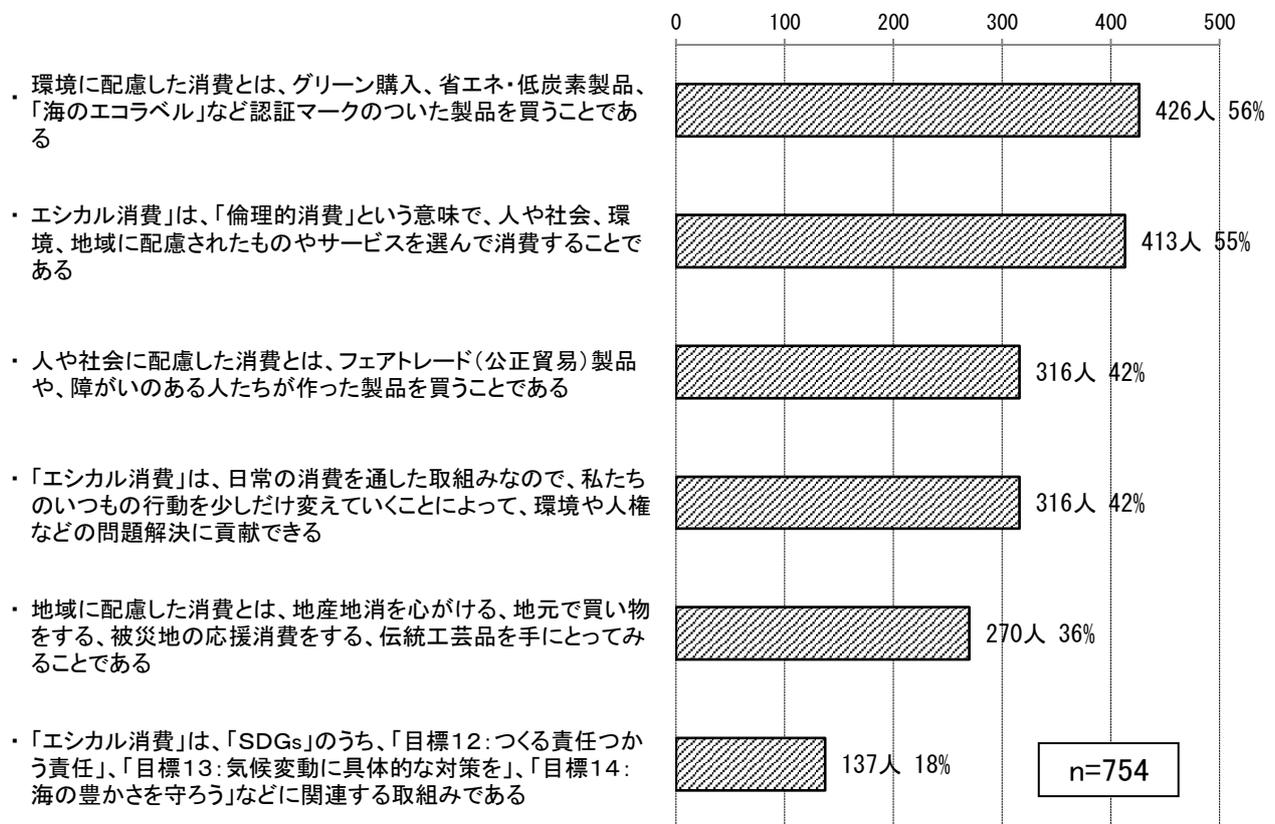


問6 (1) あなたは「エシカル消費」という言葉を知っていますか。(1つだけ)

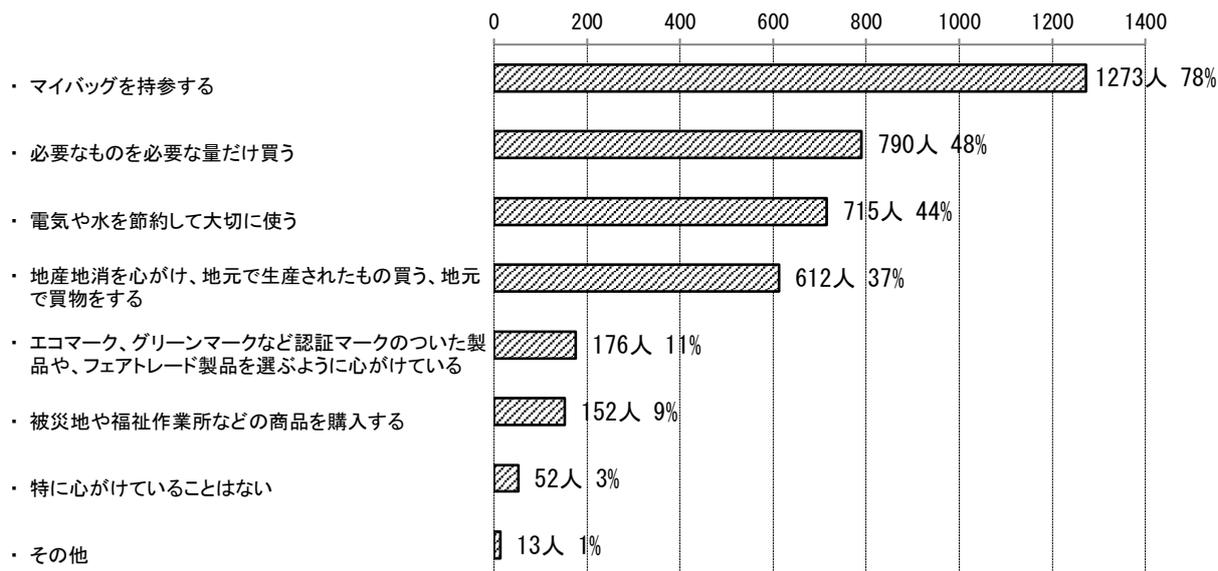


「意味まで理解している」、「おおむね理解している」合わせて19%、「聞いたことがある」27%、「知らない」52%である。

問6 (2) 上の(1)で、「意味まで理解している」「おおむね理解している」「聞いたことがある」を選択した方にお聞きします。「エシカル消費」に関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。(いくつでも)



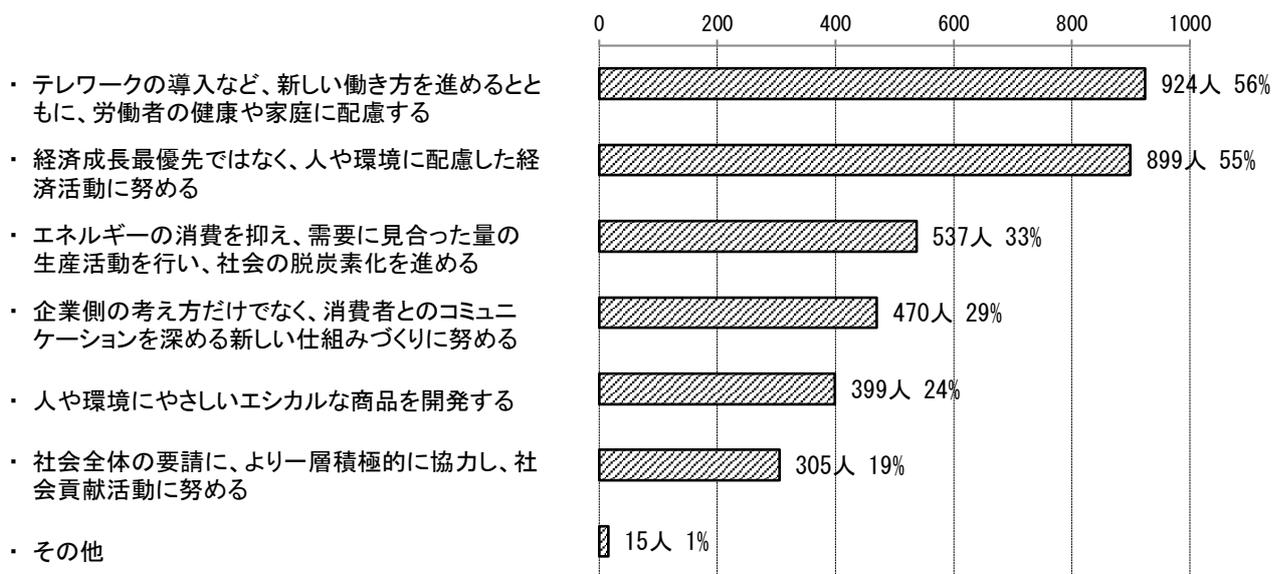
問7 「エシカル消費」に関する次の具体的な行動のうち、あなたが実践しているものはどれですか。(いくつでも)



「マイバッグを持参する」78%、「必要なものを必要な量だけ買う」48%、「電気や水を節約して大切に使う」44%、「地産地消を心がける」37%である。また、「特に心がけていることはない」3%である。

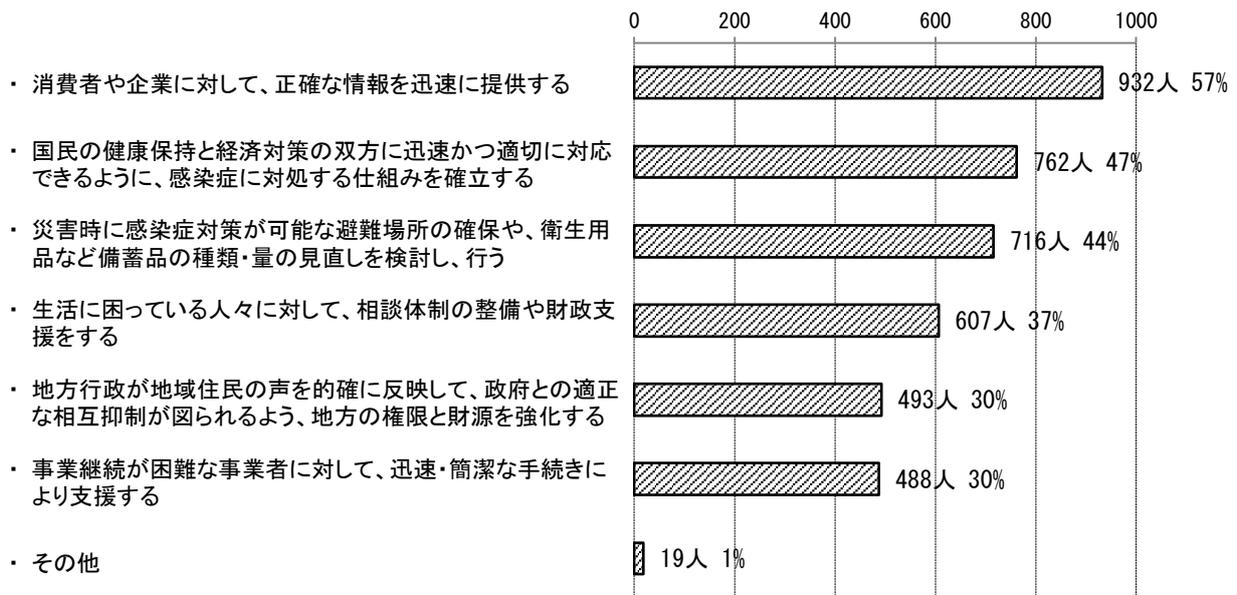
IV 企業や行政に望むことについて

問8 新型コロナウイルス感染拡大の現状を乗り越えて、将来的に持続可能な経済社会の発展をめざすために、企業に望むことは何ですか。(3つまで)



「テレワークの導入など新しい働き方を進めるとともに、労働者の健康や家庭に配慮する」56%、「経済成長最優先ではなく、人や環境に配慮した経済活動に努める」55%、「エネルギーの消費を抑え、需要に見合った量の生産活動を行い、社会の脱炭素化を進める」33%、「企業側の考え方だけでなく、消費者とのコミュニケーションを深める新しい仕組みづくりに努める」29%である。

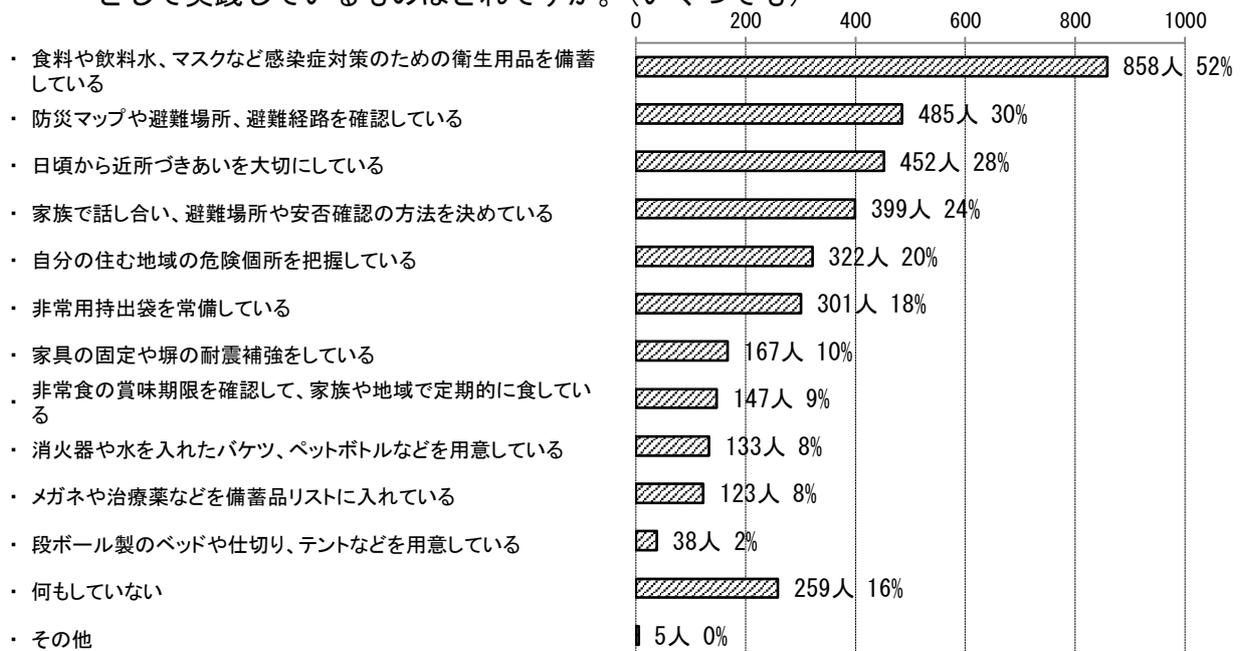
問9 新型コロナウイルス感染拡大の現状を乗り切って、将来的に持続可能な経済社会をめざすために、行政に望むことは何ですか。(3つまで)



「正確な情報を迅速に提供する」57%、「国民の健康保持と経済対策の双方に迅速かつ適切に対応できるように、感染症に対処する仕組みを確立する」47%、「災害時の避難場所の確保や、衛生用品など備蓄品の種類量の見直しを行う」44%である。

V 非常時の備えについて

問10 新型コロナウイルス感染症の拡大は、非常事態といえます。現在、非常時に対する備えとして実践しているものはどれですか。(いくつでも)



「食料や飲料水、マスクなど感染症対策のための衛生用品を備蓄している」52%、「防災マップや避難場所避難経路を確認している」30%、「日頃から近所づきあいを大切にしている」28%である。また、「何もしていない」16%である。

調査結果のまとめ

I 新型コロナウイルス感染症発生による現状から

- ・日常生活の変化については、「衛生意識や健康意識が高くなった」85%、「ウイルス対策品を購入」45%、「家の中の整理整頓」・「怪我や健康に留意」36%、一方、「特に変化はない」5%である。
- ・困っていることは、「コロナの収束時期が分からず不安」68%、「外出自粛で買物や人との交流が出来ない」50%、一方、「特に困っていることはない」16%である。
- ・消費者として望ましい行動は、「正確な情報を見極める」68%、「宅配など社会を支える業務従事者に感謝する」・「食品ロスを削減する」57%、「買いすぎたり備蓄しない」51%である。

II 今後の経済社会の在り方について

- ・コロナ収束後の社会はどのように変化していけばいいかについては、半数程度の人が、「感染症と共生できる環境の整備」、「情報化の環境整備」、「社会における共助の精神を大切にする」、「持続可能な経済活動の重視」、「食料自給率を高める」などをあげている。

III 「SDGs」や「エシカル消費」について

- ・「SDGs」については、「よく理解している」「おおむね知っている」合わせて44%、「聞いたことがある」20%、「知らない」35%である。
- ・「エシカル消費」については、「意味まで理解している」「おおむね理解している」合わせて19%、(2018年の調査では合わせて11%)、「聞いたことがある」27%、「知らない」52%である。

IV 企業や行政に望むことについて

- ・企業に望むことは、「テレワークの導入など新しい働き方を進めるとともに、労働者の健康や家庭に配慮する」56%、「経済最優先ではなく、人や環境に配慮した経済活動に努める」55%である。
- ・行政に望むことは、「正確な情報を迅速に提供する」57%、「感染症に対処する仕組みの確立」47%、「感染症対策が可能な避難場所の確保や備蓄品の見直し」44%である。

V 非常時の備えについて

- ・実践しているものは、「衛生用品の備蓄」52%、「防災マップ、避難場所等の確認」30%、「日頃から近所づきあいを大切にしている」28%であり、一方、「何もしていない」16%である。

今後の取組み

上記の調査結果を踏まえて、次のような行動を通じて、啓発普及に努めていきたい。

- 「SDGs」を知っている人は44%であるが、「SDGs」の目標達成に貢献する消費行動である「エシカル消費」を知っている人は19%と、依然低い。このため、「エシカル消費」について、具体的な実践例（マイバッグ持参、食品ロスの削減、地産地消、応援消費など）を提供するとともに、グループ活動を通じて、新型コロナの影響による新しいエコスタイルを推奨するなど、一層の啓発普及に努めていきたい。
- 将来的に持続可能な経済社会の発展を目指すために、企業に対しては、意見交換会などの機会を通して、経済成長優先ではなく人や環境に配慮した経済活動や、家庭に配慮した新しい働き方の推進、エネルギーの消費抑制などについて、理解を求めていきたい。
- 行政に対しては、審議会等の機会を捉えて、正確で迅速な情報提供、感染症に対処する仕組みづくり、相談体制の整備などについて、要望していきたい。

ご協力いただき、ありがとうございました。

このアンケートに関するお問い合わせ先
富山県消費者協会
富山市湊入船町6-7
(県民共生センター内)
TEL 076-432-5690

□

